

絆

Kizuna – the bonds of friendship

平成 23 年 4 月 11 日

巨大な地震と津波に見舞われ、1 万 3 千人以上の死者を出した東日本大震災から一ヶ月が経ちましたが、未だに 1 万 4 千人以上が行方不明であり、約 15 万の方々が、今も避難生活を強いられています。我が国の国民だけでなく、外国人の方も含め、今回被災されたすべての方と、そのご家族の皆様には、心よりお見舞いを申し上げます。

福島第一原子力発電所の状況については、現在、事態の収束のために全ての資源を動員し、一日も早い安定化に向けて努力しているところです。

大震災からの一ヶ月間は、日本にとって極めて厳しい期間でした。しかし、同時に、日本は世界と共にあることを、改めて実感し、感謝する期間となりました。

これまで 130 以上の国・地域、40 近い国際機関、数多くの非政府組織、そして世界中の方々からお見舞いをいただき、さらには義捐金などを通じて支援と連帯を示していただきました。様々な国・地域から救助隊員の方々が駆けつけ、いち早く被災地で救援活動を行い、食料・医薬品・毛布等の物資を届けてくださったことは、被災者を心から勇気づける支援でもありました。また、被災地の復興を願い、遠い国の子供たちが一生懸命折ってくれた千羽鶴も届けていただきました。

キルギス共和国からは、大変迅速かつ心のこもった支援を頂きました。地震が発生した 11 日の夜、オトウンバエヴァ大統領から弔意表明と支援の提案を頂き、18 日には、キルギス政府の特別機によって、ミネラル・ウォーター 2.5 トンの人道物資が日本に届けられました。キルギスは、今般の東日本大震災の直後に支援を申し出てくれた国です。また、オトウンバエヴァ大統領、アタムバエフ首相、ケルディベコフ議会議長、政府関係者、企業・教育機関・病院・NGO 等の各団体及び国民の皆様から幅広く弔意書簡や記帳を頂きました。また、多くの機関・国民の皆様から義捐金の寄付を頂くとともに、被災者への義捐金の募金のためにチャリティ・コンサートも開催されました。

このような世界中からの支援に対し日本国民を代表して心から感謝を申し上げます。

日本は必ず再生し、復活し、さらに素晴らしい国になります。国際社会が示してく

まさかの友は真の友

ださった温かい激励と連帯に応えるためにも、その新生への道を歩むことこそが、我が国の責務であり、最高の返礼であると考えています。そして、日本国民の底力と国際社会の温かいご協力により、それは必ずできると、私は確信しています。

そして、世界の皆様からいただいた温かいご支援に対し、国際貢献という形で、必ず恩返しをしたいと思いを定めています。

そのためにも、私は、復興に向けて全力を尽くして参ります。

内閣総理大臣

菅 直人